

東北大学附属図書館報

木這子



BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

—木這子（きぼこ）とは東北地方の方言で、こけしのこと。小芥子這子（こけしぼうこ）—

目 次

○農学分館長に就任して……………	1
○「図書館サービスの要件と評価（SERVQUAL 調査）」報告（概要）……………	2
○東北大学附属図書館報「木這子」の電子化に ついて……………	6
○共用引用文献データベース Web of Science の導入について……………	12
○平成12年度参考図書購入報告……………	13

○平成12年度特別図書購入報告……………	14
○平成13年度目録システム地域講習会の開催……………	15
○お知らせ……………	15
○第32回国立大学図書館東北地区協議会総会……………	16
○会 議……………	16
○附属図書館商議会商議員名簿……………	17
○人事異動……………	18
○編集後記……………	20

農学分館長に就任して

農学研究科 教授 大 森 迪 夫



昭和22年の農学部創設と共にゼロから出発した農学部図書室は昭和53年に附属図書館農学分館となり全学的連携と支援のもとに整備・拡充が図られてきました。その間に図書館

を取り巻く状況と図書館に求められている機能は大きく変化し、また、その変化は益々速くなってきているように思われます。そのような変化に迅速、的確に対応することは容易ならざることです。

ここで、農学分館の現況と対処しなければならない問題点を整理してみると次の二つに要約されます。それらの問題はいずれも、最新の資料の収集とそれまでの貴重な資料の整理、保管という図書館の持つ二つの最も基本的機能を損ないかねない問題と考えられます。

第一番目の問題は分館の狭隘化の問題です。分館は当初、予定収蔵量を80,000冊として設計、建設されましたが、23年経過した現在、総収蔵冊子数が120,000冊を越える状況になり、狭隘化が進んでいます。集密書架等を含め、過去3回にわたって書架の増設を行って収蔵スペースを確保する努力をしてきましたが、このことは

閲覧スペースの圧縮をもたらしています。情報検索システムの充実，開館時間の延長，土日閲覧システムの導入等の利用者の利便性の改善が進んでも狭隘な閲覧スペースでは十分なサービスを与えているとは言い切れません。

第二の問題は各種資料，特に外国雑誌の購入経費の増大です。農学研究科に配分される，いわゆる経常経費が頭打ちの状態でのこの問題は最も大きな問題です。学問の発展に伴い，新しい雑誌類が数多く刊行されるようになり，それらの新資料の新規購入と，従来の継続雑誌の維持を，益々厳しさを増すと考えられる財政状況の下で，如何に調整していくか，あるいは学生用図書を如何に充実していくかは大きな課題

です。

図書，図書館サービスの電子化，そして情報ネットワークの発展は目を見張らせるものがあり，利用者の利便性は格段に向上してきました。昨年来進んでいる電子ジャーナル利用による重複雑誌の調整と予算の節約は，今後の推移を見なければ判断出来ない側面がありますが，上記の二つの問題の解決に役立つ側面を有しているものと期待されます。しかし，それらのことが問題のすべてを解決する即効薬になるとは考えられません。この様な時期に分館長の大役を仰せつかり，身の引き締まる思いですが，幾ばくかでもお役に立てるよう努力したいと思っています。

(おおもり・みちお)

「図書館サービスの要件と評価（SERVQUAL 調査）」報告（概要）

山形県立米沢女子短期大学社会情報学科 助教授 佐藤 義 則
(附属図書館委嘱研究員)

はじめに

平成12年10月から11月にかけて，東北大学において図書館サービスの評価に関する2種類の調査を行った。ここでは，その概要を報告する。

この調査は，東北大学附属図書館のサービス状況の「点検・評価」に資するデータの収集のため，かつ図書館情報大学・永田治樹教授と筆者の「図書館サービスの品質評価」に関する研究の一環として，企画・実施したものである。

1. 調査の目的と概要

現在の図書館サービスにおいては，他の行政組織と同様に「アカウントビリティ」の確保が強く求められるようになってきている。また，資料のデジタル化，Internetの進展，電子ジャーナル等の情報流通手段の変革など急激に変化する環境の中で，利用者（顧客）がサービスに求める内容が大きく変化しつつあり，効率的な運

営だけでなく，顧客の期待に適合しうる成果重視のサービス設計・経営への転換が必要となっている。

こうしたことから，大学図書館においては，近年「自己評価」あるいは「他者評価」作業が実施され一定の成果を生んできた。しかし，その内容は概ね従来からの図書館統計をベースにした年間購入費や貸出件数等の入力・出力に依存したものであり，サービスの質やサービスが生み出す成果を評価できるものには至っていない。また，そうした質的な評価方式についても十分な検討がなされてきたとは言えない。

そこで，本調査では Parasuraman, Zeithaml, Berry (1985) によって開発され，マーケティングの分野で数多く活用されてきた SERVQUAL をベースとしたアンケート調査の実施により，図書館のサービス状況の把握とともに，評価方法の在り方を巡る検討材料を得るこ

とを目的とした。

本来の SERVQUAL では、有形性・信頼性・応答性・保証性・共感性の 5 つの局面（表 1 参照）毎に、合計 22 項目の質問を設定し、各々に期待（それぞれのサービスの重要度）と認知（実際のサービスの評価）状況を 7 段階のスケールによる回答を受ける方式をとる。但し、SERVQUAL は業種を越えたさまざまなサービス状況での汎用的な使用を前提としているが、これに対して、図書館サービスのような個別のサービス状況設定にうまく適合しないとの批判もある。そこで今回は、とりあえずコレクションへのアクセスに関連する 3 項目を追加した合計 25 の設問を設定し調査を実施することとした。

調査は、a) 図書館サービス全般、b) ILL サービス（図書館間相互利用）の 2 通りを実施した。a) は学内の教員、学生・大学院生、そ

れに図書館職員を対象としており、そこには図書館の非利用者やあまり図書館を利用しない層も含まれる。一方、b) では、現在のサービス利用者を対象とし、かつ ILL という具体的な個別のサービスを前提としている点に違いがある。両者を実施したのは、対象及び視点の異なる 2 つの調査を総合することにより、図書館サービスの持つ特質を明確にすることを意図したためである。

2. 全般調査の結果から

調査結果の詳細については別途報告書を作成しており、また紙幅の関係もあるので、ここでは全般調査の結果から特に目立った点について言及したい。

最初に、調査に対する回答状況は以下の通りであった。

	母集団数	送付数	返却数	回収率	有効回答 1	回答率 1	有効回答 2	回答率 2
学生・院生	10,410	500	108	21.6%	80	16.0%	101	20.2%
教員	360	360	109	30.3%	86	23.9%	100	27.8%

※有効回答 1 = すべての記入を満たしたもの。

※有効回答 2 = 項目毎の記入数の最小値。なお、最大値は返却数に同じである。

○期待と認知の状況

表 1 は、全回答者（図書館職員を除く）の各項目毎の期待値、認知値、GAP 値（認知値－期待値）の平均をまとめたものである。また、図 1 は表 1 の数字をもとにグラフを作成したものである。

まず、「職員の身だしなみ」以外の項目で GAP 値がマイナスになっているが、SERVQUAL 調査においては GAP 値は概ねマイナスの値をとることが多く、それ自体は問題ではない。重要であるのは、極端に大きなマイナスを示している項目である。特に目を引くのは、

「コレクション利用」に関する 3 項目に関する GAP 値の大きさである。図 2 は、学生（大学院生を含む）と教員の別に分けた場合の GAP 値をグラフ化したものであるが、学生でも教員でも同様の傾向を示している。これらの項目においては利用者の期待値も高く、すなわち図書館サービスの不可欠な機能として認識されていると考えられる。例えば、「資料・文献の探索が容易」という点については、ネットワークを介した検索機能の強化等の改善が見られるが、蔵書データベースへの遡及入力等の抜本的な解決策が求められよう。

表 1. 質問毎の期待値・認知値・GAP 値

n = 175

局面	質 問	期 待 値	認 知 値	GAP 値
有形性	建物・施設の見た目が良い（美観）	4.126	3.903	-0.223
	職員の身だしなみは専門職らしい印象を与える	3.657	4.657	1.000
	最新の設備・機器を備えている	5.309	4.114	-1.194
	サービス関連の資料（パンフレット・案内）が充実している	4.983	4.137	-0.846
信頼性	ミスがないよう、サービスをきちんと行う	5.834	5.440	-0.394
	目録等において入力ミスが生じないように務める	5.943	4.966	-0.977
	表示された（決められた）時間帯にサービスを行う	5.571	5.394	-0.177
	何かを約束したら、その期日までに実行する	5.966	5.120	-0.846
	利用者が問題を抱えているとき、その解決に誠実に対応する	5.737	4.651	-1.086
応答性	利用者に迅速なサービスを提供する	5.920	4.811	-1.109
	職員は、いつサービスを行うかをきちんと伝える	5.640	4.606	-1.034
	職員は進んで利用者を手助けする	4.771	4.183	-0.589
	職員は、常に利用者の要請に対応できる態勢にある	5.554	4.354	-1.200
保証性	職員は信頼がおける	5.931	5.286	-0.646
	職員は、利用者に対していつも丁寧・親切である	5.703	4.863	-0.840
	職員は、利用者の質問に対応できる知識を持っている	5.971	4.514	-1.457
	処理の正確さ、プライバシー保護の面で安心できる	5.811	4.926	-0.886
共感性	すべての利用者に利用しやすい開館・サービス時間である	6.057	3.834	-2.223
	職員は利用者のニーズをしっかりと把握している	5.869	3.886	-1.983
	職員は利用者に親身に対応する	5.577	4.846	-0.731
	利用者の一人一人を大事にする	5.463	4.663	-0.800
	職員は利用者が成果をあげることを一番に考えている	5.137	4.309	-0.829
＊	必要な資料・文献を見つけ出すことが容易である	6.651	4.109	-2.543
	必要な資料・文献が揃っている	6.703	4.343	-2.360
	学外やネットワーク上にある資料に対する案内が充実している	6.000	4.240	-1.760

図 1 利用者の期待と認知のグラフ

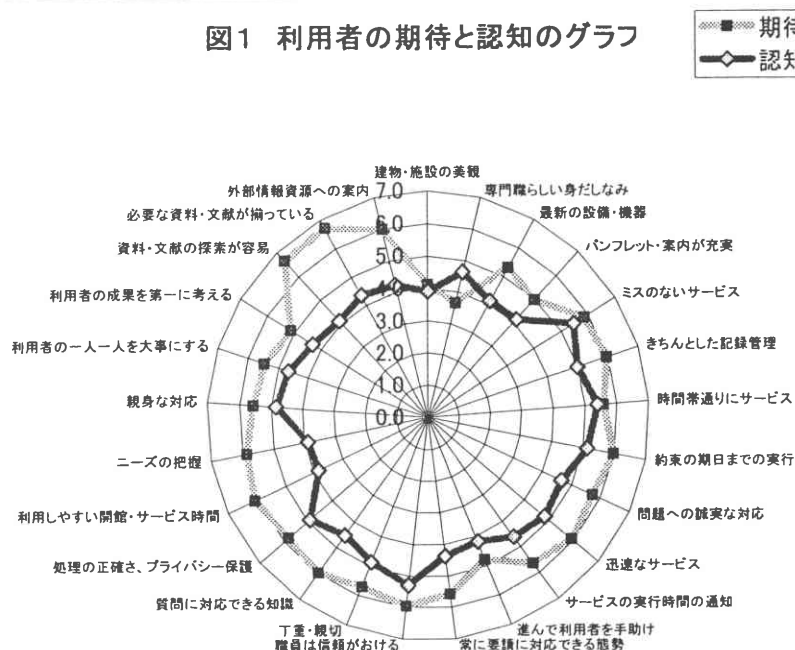
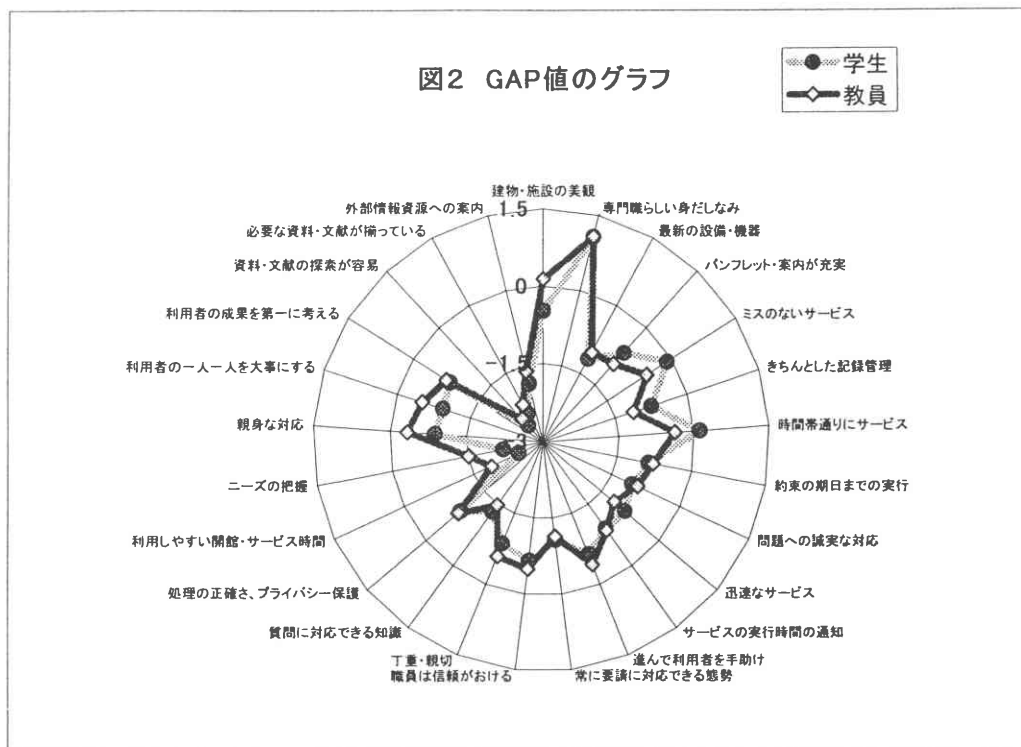


図2 GAP値のグラフ



次に、「利用しやすい開館・サービス時間」も、大きなギャップを示している。特に、認知値が低い。この項目には、2通りの意味が考えられる。土曜・日曜を含めた開館時間帯に対する不満と、開館時のサービス内容（例えば、土曜には限られたサービスしか実施されていない）に対する不満である。実は、今回の調査では、25の調査項目以外に追加すべき事項を求めたが、そこでもこの2通りの点に対する特に学生からの言及が多く見られた。

この他にも「ニーズの把握」や「質問に対応できる知識」等にも、検討すべき課題がありそうである。こうしたデータを業務の「点検」に活かしていただければと考える。

3. 今後に向けて

今回の調査を通し、利用者が図書館に対して持つイメージは一樣ではなく、図書館に期待される機能は多様な広がりを持ち、また変化するものであることがあらためて確認された。

この種の調査で重要なのは、単にズレを把握するだけでなく、結果を経営改善に活かすことにある。その意味で、例えば一定期間を置いて繰返し実施すれば、改善効果の確認や新たな課題発見も期待できる。また、他の図書館等との比較による、いわゆるベンチマークとしての活用も想定され得る。こうした評価やそれに基づくマネジメントを、管理者・担当者の日常的な業務にいかに組み込んでいけるかがもう一つの大きな課題である。

今後は、今回の調査結果や他大学における調査をもとに、質問項目の設定、ワーディング（項目表現）、回答率の向上策（例えば、Webを使ったアンケート方式）、等の諸点について見直しを行い、サービス評価方式の改善を模索していきたいと考えている。

最後に、こうした機会を快く与えていただいた小田館長はじめ東北大学附属図書館の各位に謝意を表したい。

（さとう・よしのり）

東北大学附属図書館報「木這子」の電子化について

－「簡易電子出版システム」プロトタイプ版として－

情報管理課 電子情報掛

はじめに

附属図書館報「木這子」の電子化は、平成12年度学内共通経費「図書館資料電子化経費」の配分を受けて、東北大学附属図書館版「簡易電子出版システム」のプロトタイプ版として作成したものです。

本稿では、その概要を紹介いたします。

1. 簡易電子出版システム

このシステムは従来型の特定のハードとソフトウェアの組合せから構成される製品をイメージしたものではありません。既存のソフトウェアと、いまや家庭仕様のパソコンでも十分な性能を有するハードを組み合わせ、電子的に情報を発信していこうという“考え方”を指しています。^(注1) キャッチコピーは「貴方の研究業績をいますぐ世界に発信!!」です。

(1) 印刷物さえあれば、コピーをとるような手軽さで電子化ができます。

スキャナ付きパソコンといくつかのフリーソフト（画像編集、HTML エディタ、FTP etc.）^(注2) が手元にあり、HTMLの知識のある方はご自身で、お金があっても暇がないという方は、外注方式で作成が可能です。外注先も日頃お付き合いのある地元の業者で十分です。

(2) コンテンツは画像のため、改変や二次利用（不正使用）の恐れが少ないシステムです。

画像表示の額縁部分を英語や画像ボタンで作れば、特に英語版を作成しなくても、世界中の端末から閲覧が可能です。画像ファイルのサイズは大きくなりますが、画質（解像度等）^(注3) を上げることに制限はありません。PDFやXDW ファイル等を利用しての作成ももちろん可能です。

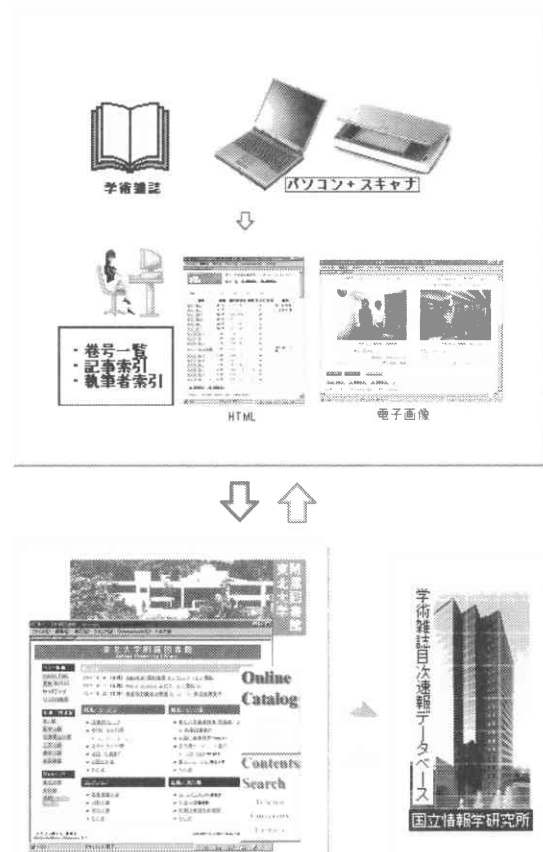
(3) データの蓄積には、図書館関係のサーバをご利用いただけます。

利用制限等特殊な環境を必要としないことな

ど、受入にあたっては若干の制限事項を設けています。

図1. に簡易電子出版システムの概要を示してみました。図に示すように、このシステムが単独で機能するだけでなく、さらに、図書館や国立情報学研究所のシステムを利用することも可能です。

図1. 簡易電子出版システム



(4) T-LINES 4（東北大学図書館情報ネットワークシステム）との連携で、OPAC（目録情報）や目次情報をサービスできます。

目次データは、NII（国立情報学研究所）^(注4) フォーマットが利用できます。また、学術雑誌（印刷物）を図書館へ寄贈している場合は、目録（書

誌) 情報は原則として作成済みです。

<登録例>

- NII 目次登録 → 目次データダウンロード
→ 図書館へ目次データ送付 (メール添付等)
→ OPAC, Contents Search (雑誌目次検索)
登録

<検索例>

- OPAC 検索 → 書誌情報 → 目次情報 (確認) → 「木這子」電子版 [リンク]
→ 個別記事 (電子画像)

このシステムは、既存の仕組みを組合わせただけの簡便な処理を前提にはしていますが、他の電子的システムとの連携により、十分な学術情報発信機能を有するものと考えております。

2. 「木這子」電子版の特徴

「木這子」電子版では、これまでの図書館員の日頃の努力の成果物である「索引」を電子化の過程で OCR 処理して、記事索引、執筆者索引の形で付加しています。

「索引」は、第20巻までしか作られていないため、第21巻～第25巻1号までは新たに入力作業を行いました。この校正処理の過程で、第20巻までの記事データが簡略化された目次からの採録であったこと、記述の省略化や配列のために実際の記事の標題とは完全に一致していないという問題を発見したため、全記事データを修正するという予定外の作業をすることになってしまいました。

今回は、約1,400頁を一挙に処理するため、電子 (画像) 化及び HTML の作成は外注方式で行いました。巻号一覧、記事索引、執筆者索引及びロゴやボタン等のデザインは、電子情報掛が作成したものです。

頁デザインは、すでに公開済みの「狩野文庫画像データベース」に酷似していますが、この画像データベース作成時に、すでに簡易電子出版システムの構想があり、開発費を抑えるために汎用的なデザインを採用したという経緯があります。

「木這子」電子版では、画像ファイルを

^(注7) PNG形式で作成しています。このシステムでは学外からのアクセスを考慮して、できるだけ軽い画像での情報提供を大前提にしており、^(注8) JPEG 形式では標準圧縮率75%で、資料の文字部分等の細部を十分に表現できなかったこと、WWW ブラウザ表示時に PDF のようにプラグインが起動する煩わしさを避けたこと等が PNG 採用にいたった主な理由です。

画像の読みとりと加工テストを数回繰り返して、経済的観点もくわえて総合的に評価した結果、スキャナの読込解像度は、^(注9) 200dpi とすることにしました。

また、図版や写真を含む頁が多いこと、文字、図版をそれぞれにふさわしい方法で読みとって画像作成時に合成する方式をとることが費用の点で困難なため、1頁を一度にまるごと読みとる方法をとりました。このため、図版等の多い頁の文字部の表現には若干弱い部分が出ましたが、実用上まったく問題のない範囲には仕上がっています。

オリジナル画像は別途 ^(注10) TIFF 形式のファイルで作成してあり、保存や今後に必要なとされるかもしれない高精細な画像の作成に備えています。

また、記事索引や執筆者索引などの索引データは、一つのテキストデータ (^(注11) CSV 形式) を編集することで作成されており、この基本データを中心にメンテナンスしていけばいつでも必要な形式のデータをアップデートできるように配慮してあります。

関連して、主にフリーソフトにより、各頁を自動作成する方法や目的別のデータ編集方法も標準化してみました。今後の各号の電子化は図書館で行うことになりますので、実際にこの手順で問題がないか、評価したいと考えています。

なお、今回は図書館員が作成する電子版ということ、途中までとはいえず「索引」ができていたこともあって、テキストによる索引を編集する作業を特に行いましたが、とりあえず最近の号から電子化したいなどという場合は、あまり形式にとらわれず、まず、情報を発信するという姿勢が大事ではないかと思えます。

この「木這子」電子化の試みでその簡便さに触れていただき、学内で生産される学術情報をどんどん情報発信していただけるようになるのではないかと期待しています。

3. 「木這子」電子版の内容

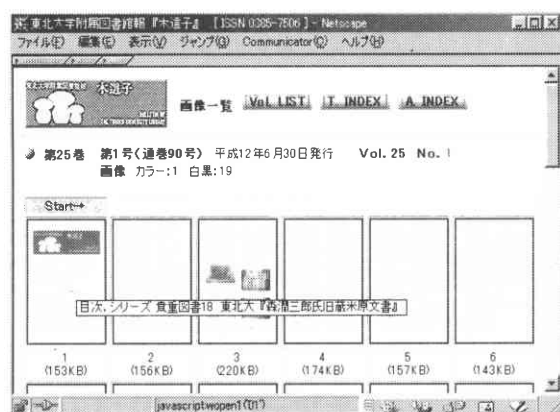
「木這子」電子版にアクセスしますと、はじめに図2.の巻号一覧が表示されます。

図2. 巻号一覧 (抄)

巻号	通巻	発行年月日	頁数	サイズ	目次	備考
Vol.1 No.1	第1号	1976.4.30	6	B5	×	発行年誤植
Vol.1 No.2	第2号	1976.7.31	8	B5	×	p.7正誤表有
Vol.1 No.3	第3号	1976.10.30	8	B5	×	
Vol.1 No.4	第4号	1977.1.31	6	B5	×	
Vol.2 No.1	第5号	1977.4.30	8	B5	×	
Vol.2 No.2	第6号	1977.7.30	8	B5	×	
Vol.20 No.4	73号	1996.3.31	24	A4	○	
Vol.21 No.1	74号	1996.6.30	16	A4	○	
Vol.21 No.2	75号	1996.9.30	14	A4	○	
Vol.21 No.2(別冊)	75号	1996.9.30	22	A4	○	索引 第1~20巻
Vol.21 No.3	76号	1996.12.31	18	A4	○	
Vol.21 No.4	77号	1997.3.31	18	A4	○	
Vol.22 No.1	78号	1997.6.30	24	A4	○	
Vol.24 No.3	88号	1999.12.31	16	A4	○	
Vol.24 No.4	89号	2000.3.31	20	A4	○	
Vol.25 No.1	90号	2000.6.30	20	A4	○	

ここで、見たい巻号をクリックしますと、図3.の画像一覧を表示します。各頁のサムネイル(縮小画像)で構成されるこの頁では、各画像の上にカーソルを置くとその頁の内容を数秒間、文字で表示するようになっています。

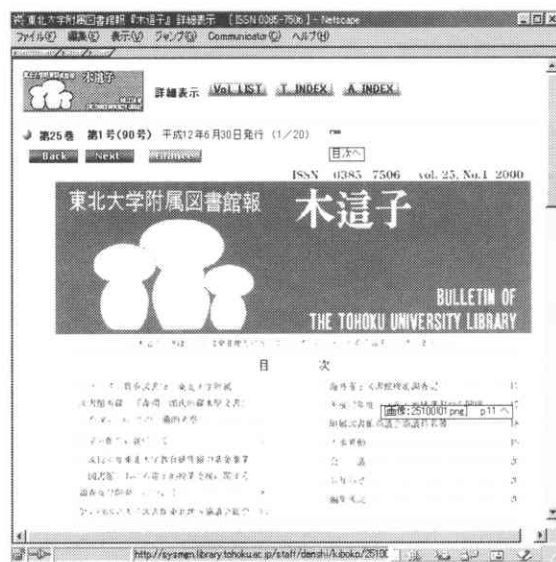
図3. 画像一覧



左端の目次頁のサムネイルをクリックしてみましょう。図4.の巻頭頁が表示されます。第25巻1号からは巻頭の目次部分をクリッカブルマップにしてありますので、この記事名等をクリックしても必要な頁に移ることができます。

各頁の上部の目次ボタンをクリックすると、どの頁からも目次頁にもどることができます。

図4. 詳細表示 (目次 [クリッカブルマップ])



目次を確認して、必要な記事を選んでクリックしても、図3.の画像一覧から直接頁を選択しても、どちらからでもアクセスできるようになっています。

図5. 本文 (写真有り)

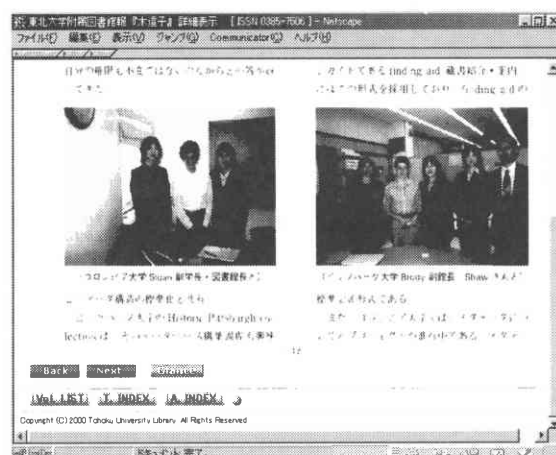


図5.に写真のある頁を例として示してありますが、図表などでさらに精度の高い画像を必要とする場合は、高精細画像の頁を別途作成し、「木這子」の通常画像からその高精細な画像に

ジャンプする仕組みも簡単に作ることができます。

いずれにしても、作成者の希望にそった頁構成をそれほどの高度な技術を必要とせずに自由に作ることができます。

つぎに、「木這子」独自の記事索引、執筆者索引について簡単に説明します。

図6. 記事索引 (抄)

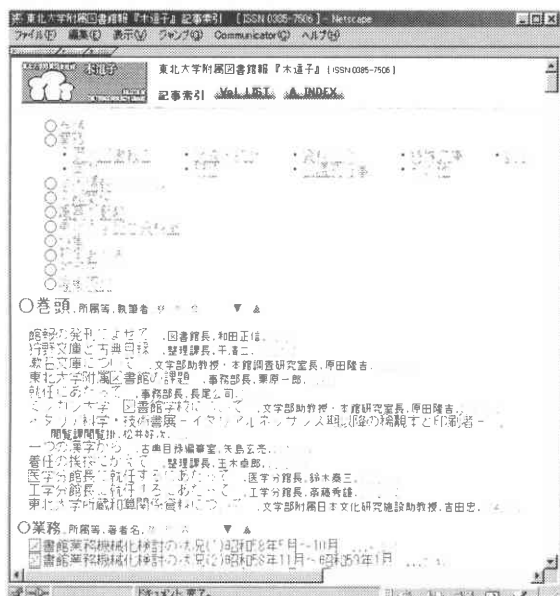


図6. では記事索引の冒頭部分を見せています。前述のように、記事の分類についてはすでにできていた「索引」をもとにして作成しています。このデータに、第21巻1号以降の目次データを記事掲載頁の正式タイトルから採録・分類して追加編集してあります。この頁も作成費用を安くおさえるために、基本データから一括変換していますので、デザイン等にはあまり手をかけていません。

一覧性を確保したかったのと、特に検索システムをつけていないため、記事索引全体を一つの頁（ファイル）にして、一般的な意味での検索は、各ブラウザの「ページ内検索」機能におまかせしています。

もとのデータはCSV形式ですし、各記事表示はその痕跡を残したままにしていますので、この頁からでも個人用のデータベース等に加工することは、造作のないことだと思われます。

また、従来の印刷体の名残である記事の重出

もそのままにしています。巻頭にある記事が分館関係にも入っているなどの例が見られます。

図7. 執筆者索引

執筆者名	巻(号)頁
相川 晶子	12(2)39
青木 健	9(1)13
浅野 裕一	24(4)17-13
阿野 文朗	20(3)1-5
安孫子 麟	17(2)1-5
阿部 佳市	3(2)8, 11(3)5-6, 12(4)5, 13(3)11, 14(1)3, 14(3)5-6, 17(1)9-13, 18(1)-20(1)8-29, 19(2)14-16
阿部 寿雄	2(3)6-7
安倍 正人	16(1)-2(1)-3
有賀 祥隆	22(2)4-6
安 龍彦	18(4)4-5
飯沼 一宇	24(4)6
井川 克也	9(1)1-2
池田 智雄	23(4)12-14
石井 厚	11(2)1-3
石垣 久四郎	11(2)3-5, 13(2)1-4, 14(4)1-2
石川 亮	3(3)2, 4(2)1-2

図7. の執筆者索引は、冊子体の「索引」では著者名索引（五十音順）と呼ばれていたものです。執筆者の“よみ”の付与が途中から行われるようになったため、初期の執筆者の名前については、図書館経験の長い方に意見を求めて、できるだけ正確な“よみ”をつけるように努力しましたが、正しいソートが行われているのか若干の疑義もあります。今度の一般公開により、誤りの指摘があれば修正する予定です。

「木這子」電子版の内容は概ね以上のようになっています。HTML 記述なども非常にシンプルなレベルにとどめてありますので、少し知識のある方なら、このシステムの全体構成をつかむのにそれほどの時間を要しないでしょう。

4. 他の電子的システムとの連携

「木這子」電子版を紹介する本稿の目的からは少しはずれますが、T-LINES のリプレイスにより OPAC から目次情報を利用できるようになりましたので、簡単に触れます。

Contents Search（雑誌目次検索）システムに目次データを登録すると、OPAC の学内目録（書誌）データに目次情報がリンクされ、目次ボタンが表示されます。

図8. OPAC (書誌表示)

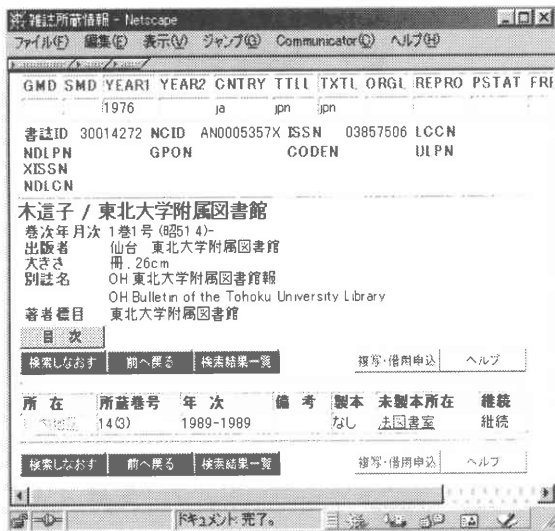
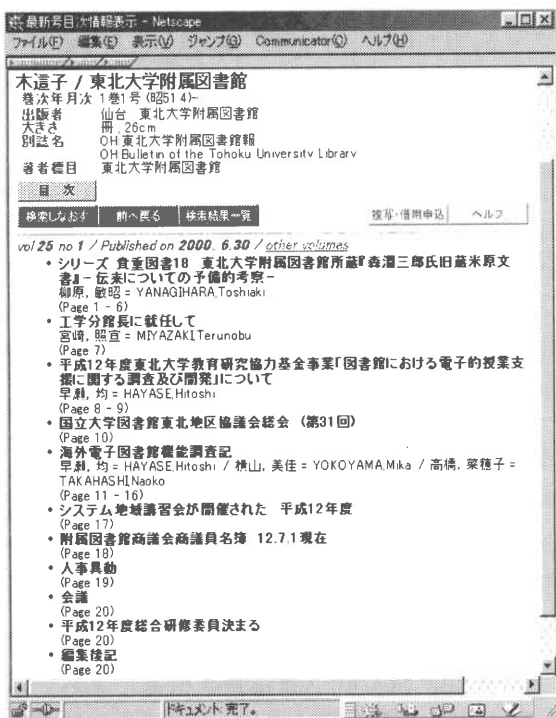


図8.に「木這子」のOPAC 検索結果を示しました。ここで、目次ボタンをクリックすると次の図9.の画面にかわり、雑誌が持つ目次情報から、最新号の目次を表示するようになっています。other volumes をクリックすると巻号一覧が最新号から降順に表示され、巻号表示をクリックして各号の目次をみることができます。

図9. OPAC (最新目次表示)



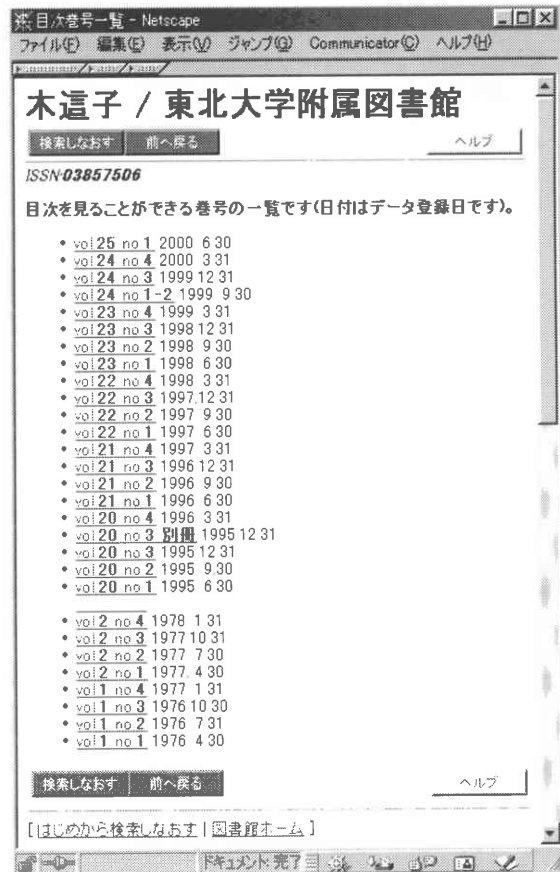
この画面では、まだ、目録から「木這子」電子版（全文）へのリンクポイントを設けていま

せんが、Full Text ないし本文という表示をクリックして本文（電子版）にリンクすることになります。

図10.には Contents Search（雑誌目次検索）システムの巻号一覧画面を出しておきました。

このシステムでは、目次情報全体を記事（漢字）や執筆者名で検索することができます。

図10. Contents Search（雑誌目次検索）



おわりに

図書館の歴史を約四半世紀にわたって綴る「木這子」の電子化により、パソコンの画面上で簡単に図書館の歩みを概観できるようになりました。WWW 公開にあたっては、執筆者の許諾を得る作業が残っていますので、今回の本文の一般公開は原稿依頼時に許諾を得ている第25巻1号のみですが、図書系の業務端末からは自由にアクセスできるようになります。

今後は、既刊の第25巻2～4号分についてもできるだけ早く電子化し、印刷物の発行と電子版の公開が同時に行えるようにしていきたいと

思っています。

最後になりましたが、ページ・ロゴ・ボタン等のデザインや資料電子化にあたっての画像評

価等で貴重なご意見をいただいた地元業者や若手職員の皆様に心から御礼申し上げます。

(文責：日出)

注

1. この“考え方”の対極にあるシステムとしては国立情報学研究所(NII - The National Institute of Informatics -)の「オンラインジャーナル編集・出版システム NACSIS-OLJ」などがあげられる。

<http://www.nii.ac.jp/olj/>

2. HTML:Hyper Text Markup Language. ハイパーテキストを記述するための言語で、インターネット上のWWW(World Wide Web)の作成に使用される。＜＞で囲まれたタグで制御する。

<http://www.w3.org/MarkUp/>

3. PDF: Portable Document Format. Adobe System社の開発した文書管理および文書配布用の形式、元の書類の数十分の一の容量になる。

<http://www.adobe.co.jp/products/acrobat/readstep.html>

XDW: Xerox DocuWorks. 富士ゼロックス社の電子書類ソフト「DocuWorks」のファイル形式。

<http://www.fujixerox.co.jp/soft/docuworks/>

4. 学術雑誌目次速報データベース: 学術雑誌に掲載された記事を収録したデータベースで、参加機関の分担入力で作成、NACSIS-IR(情報検索サービス)で公開している。

<http://www.nii.ac.jp/sokuho/gaiyo/nacsis.html>

5. OCR: Optical Character Recognition. 光学式文字認識。スキャナなどを用いて紙面の文字をコンピュータで認識し、テキスト化すること。

6. 狩野文庫画像データベース: 明治の思想家・教育者として有名な狩野亨吉の旧蔵書から、平成11年度科学研究費補助金(研究成果公開促進費)により彩色資料(錦絵・地図等)約200点(約3,500画像)を、平成12年度学内経費により絵本を中心に約80点(白黒約5,700画像)を収録。

http://www.library.tohoku.ac.jp/kano/kano_top.html

7. PNG: Portable Network Graphics. W3C(WWWに関する規格の標準化団体)がインターネットの標準フォーマットとして推奨している、ビットマップグラフィックス用のファイル形式。GIFより圧縮率が高いので、データが小さくなりページの読み込みが速くなる、可逆圧縮なのでJPEGのように画質が劣化しない、実用上色数の制限がない等の特徴がある。

<http://www.w3.org/Graphics/PNG/>

「^{ちぎょうあておこないじょう}尼子義久知行宛行状」
^{うまのじょう}右馬允に宛てられている。こ

8. JPEG: Joint Photographic Experts Group. カラー静止画像データを圧縮する方式。高圧縮で知られる非可逆圧縮が使われている。

「^{ちぎょうあておこないじょう}尼子義久知行宛行状」
^{うまのじょう}右馬允に宛てられている。こ

9. dpi: dots per inch. 1インチあたりのドット数。画像やプリンタの出力解像度などを表わす単位。

10. TIFF: Tagged Image File Format. Aldus(Adobe Systemsに併合)が開発したビットマップグラフィックス用のファイル形式。

11. CSV: Comma Separated Value (format). 項目間をカンマで区切ったテキストファイルで、データベースや表計算のファイル形式として最も汎用性がある。

共通引用文献データベース Web of Science の導入について

Web of Science (以下, WoS と略す) は, 現在の大学が置かれたグローバルな競争的研究環境の中で, 研究者の研究政策を決定するうえで最も強力な探索ツールとして欧米諸国で早くから取り入れられており, ナショナル・ライセンスで導入している国も多い。

WoS の大きな特徴である論文間の引用関係を検索, 分析することにより, 自分の研究が国際学術コミュニティにおいてどの程度注目され認知されているか, どんなライバルを相手にしているかなどを簡単に調査することができる。さらに, 各出版社との雑誌契約により, 各引用文献を収載する電子ジャーナルをリンクで次々にたどることができ, 教育者

- ・研究者の教育研究活動を飛躍的に効率化し, 国家的・社会的な重要課題に対応した研究開発を迅速に進めることを可能にするデータベース (以下, DB と略す) であるといわれている。

最近では大学の自己点検や外部評価においても, 発表した論文の程度の目安として, また, 諸政策における大学の指標としても, この DB の論文数・引用度が用いられており, 年に一度 ISI 社から公表される大学・機関別論文引用度ランキングは大学関係者のみならず, マスコミを通して一般社会からも注目をあびるようになっている。

附属図書館においても, T-LINES (東北大学図書館情報処理ネットワークシステム) の数次のリプレイスに合わせて WWW 版 OPAC, 雑誌目次検索等ユーザ・フレンドリーなシステムの開発, 二次情報 DB のサービス, 電子ジャーナルの導入などを進めてきた。

特に, 二次情報 DB サービスは, 現在の共同分担 (課金) 方式では利用者の減少が続く安定したサービスを続けることが困難なこと, 教官

東北大学附属図書館 Electronic Library Service



等から他の DB の導入希望も出ていることから, 大学研究基盤経費予算等により, 今回の WoS と同様の方式で, 東北大学の全構成員が無料で自由に利用できる教育研究情報基盤データベースに発展させていければと考えている。

また, WoS のデータについても, 現在は 1996 年以降しか利用できないため, 他のライバル大学・研究機関が 10 年 20 年分と遡及データの導入を進めていることもあり, 学内各部局の要望も参考にしながら, バックファイルの導入にむけて積極的に取り組んでいきたい。

WoS の検索サイト, 利用方法, 各種マニュアル等へは, 附属図書館のホームページからアクセスできる。研究者の業績評価等のための利用のみではなく, 研究戦略の構築などの戦術ツールとしても, 積極的な利用が期待される。

今回の WoS 導入においては, 総長, 事務局長の強いご支持と関係各位の特段のご配慮により早期サービスが実現した。ここに記して御礼申し上げたい。

(文責: 電子情報掛 日出)

平成12年度参考図書購入報告

参考図書費（文部省参考図書購入費，本学共通経費，川内地区部間共通費等）により平成12年度に購入し，本館レファレンス・コーナーに配置した参考図書のうち主な資料を下記のとおりお知らせします。

（情報管理課）

◆ 主な継続受入資料 ◆

CD-HIASK：朝日新聞記事データベース '99
NDL CD-ROM Line 雑誌記事索引 1975 1979, 1980 1984
環境年表 2000／2001
官報総索引 1999
現行法令 CD-ROM
全集・叢書総目録 91／98
Biological Abstracts. 2000
Commonwealth universities yearbook 2000
Contemporary authors 2000
Deutsche Nationalbibliographie. Reihe E, Monographien und Periodika 1991-1995 24巻
IBN. Pars C, Corpus alphabeticum. 1, Sectio generalis 2000
Internationale Bibliographie der Rezensionen wissenschaftlicher Literatur (IBR) 27(2)
Internationale Bibliographie der Zeitschriftenliteratur aus Allen Gebieten des Wissens (IBZ) 33
The National faculty directory 31st ed.
SSCI with Abstracts. CD-ROM 2000
Study abroad 2000
Verzeichnis lieferbarer Bucher. Ergänzungsband = German books in print 1999-2000
Verzeichnis lieferbarer Bucher. ISBN-Register = German Books in print. ISBN-register 1999-2000
Whitaker's books in print 2000
Who was who in America 12
Who's who in France 2000

◆ その他の主な受入資料 ◆

CD-ROM 朝日新聞号外
アジア・アフリカ関係図書目録 94/98
大宅壮一文庫雑誌記事索引 CD-ROM 版 1992 1996, 1997, 1998
学会年報・研究報告論文総覧 91/95 第3巻, 91/95 第4巻
近世日本対外関係文献目録
最新ハングル大辞典 全2巻
新宮澤賢治語彙辞典
西洋人著者名レファレンス事典 全3巻
世界女性史大事典
中国絵画史事典
朝鮮語漢字語辞典
東洋史西洋史図書目録 91/97
日本肖像大事典 全3巻
日本女性肖像大事典
年譜年表総索引
俳諧人物便覧
佛書解説大辞典 縮刷版
Encyclopaedia Indica vol.51-70

平成12年度特別図書購入報告

特別図書購入費(文部省配分)によって下記資料を購入し、本館に備え付けましたのでご利用ください。
(情報管理課)

番号	資 料 名	内 容	出 版 形 態
1	歴代三十四家文集	先奏から随代に至る約10世紀間の代表的な文人・三十四人の個人文集を集積したもの。明代に収集・刊刻されたものの影印本	図 書
2	The Collected Works of Jeremy Bentham (ベンサム全集)	イギリスの功利主義哲学者ベンサムの全集	図 書
3	Oxford Medieval Texts (オックスフォード中世文献集)	ヨーロッパ中世に関する基本的史料集のひとつであり、取り上げられる対象(主に年代記などの叙述史料)の高い史的意義、厳密な編纂作業を経て確立されるテキスト及びこれに付される英訳の信頼性の高さなど、名声広く研究者の間で確立されている叢書	図 書
4	The Frankfurt School : Critical Assessments (フランクフルト学派、批判的評価)	フランクフルト学派の思想に関する諸論文の中から、研究上スタンダードとなる論文を集め、テーマごとに編集した全集	図 書
5	日本現代教育基本文献叢書『社会・生涯教育文献集』	戦後の社会教育、生涯教育の重要な基本文献を収録した資料	図 書
6	アメリカ合衆国対日政策文書集成 第Ⅵ,Ⅶ期	アメリカ合衆国国務省が所蔵する日米関係文書から、日米外交防衛問題(1955,1956年)に関する文書を編纂したもの。	図 書
7	Sudosteuropa-Handbuch. 8 Bde. (南東ヨーロッパ史・ハンドブック)	南東ヨーロッパ諸国に関する研究入門叢書	図 書
8	ウォール・ストリートを超えて(日本語版) 全8巻	金融・証券投資・金融工学の専門家による証券投資論の解説	ビ デ オ テ ー プ
9	Corporate Governance (企業統治) 4 Vols.	コーポレート・ガバナンス関係の重要論文の集成	図 書
10	MEGA (マルクス・エンゲルス全集) 第Ⅱ部第2巻・収録オリジナル文書	「マルクス経済学批判」第1分冊(1985年)著書手沢本ほか関連諸草稿	マイクロ フィルム
11	日系アメリカ文学雑誌集成 Part 5. 『南加文藝』	第2次大戦前後、強制収容などの抑圧を受けていた日系アメリカ人による文芸雑誌の復刻	図 書
12	Representing India (インドを表現する) 9 Vols	イギリスの東洋研究と帝国統治との関連や、インド政府に関する公平な議論などを集めた18世紀イギリス人東洋学者によるインド論の集成	図 書
13	Early English Books. STC2. Unit. 110-112 (近世初期英語印刷文献集成)	清教徒革命から王政復古にいたる期間の英国初期刊本を集成したもの。	マイクロ フィルム
14	Parliamentary Debates(Hansard) House of Commons. 6th ser. Vos. 316-324 (英国議会下院議事録)	英国議会下院における会期ごとの議員の発言・討論を逐語的に収録したもの。	図 書

平成13年度目録システム地域講習会が開催された

附属図書館では、国立情報学研究所との共催で、毎年システム地域講習会を開催しております。

本年度は、目録システム（図書コース）講習会（目録システム業務担当職員にシステムの運用に関する知識・技術の講習）のみの対象となりました。講習会は、6月27日から29日までの3日間開催され、「システムの概論」、「端末操作解説」、「システムの実習」等の科目をカリキュラムに沿って、本館・分館等の職員が講師及

び講師補助者となって、これまでの業務上の経験並びに最新の情報に基づき、講義・実習が行われました。

受講生は、東北地区の大学、及び高等専門学校の附属図書館から推薦された図書館職員で、12名の定員いっぱいの参加がありました。

講習会では講師等の熱心な指導と受講生のまじめな受講姿勢が相俟って充実したものとなり、受講生からは感謝の意を述べた感想が寄せられました。



〔熱心な受講風景〕



〔修了証書が交付された〕

（総務課）

お 知 ら せ

6月からWeb経由で以下のサービスを開始しました

○図書の貸出予約および利用状況照会

現在借りている図書と予約している図書を確認することができます。

罰則状況も分かります。

○他館への文献複写申込みや図書の借用申込み サービス内容は以下の通りです。

- ・学内の他館へ、校費による複写申込み
- ・学外へ、校費・私費による複写申込み
- ・学外へ、私費による図書の借用申込み
- ・複写や借用申込みの状況確認。

※サービスの詳細等については、附属図書館ホームページ（<http://www.library.tohoku.ac.jp/online.html>）をご覧ください。

常設展の展示内容を入替えました

○東北大学附属図書館所蔵特殊文庫の紹介

- ・新たに児島文庫、須永文庫を紹介しています。

○書物の装丁

- ・一部内容を変更しました。

○東北大学附属図書館発行出版物紹介

- ・片平の旧本館（現、史料館）の絵葉書等を展示しました。

○東北大学出版会刊行物

- ・新刊を加えました。

○東北大学附属図書館（分館を含む）紹介

- ・2001年版の利用案内等を展示しました。

※次回の展示入替えは、明年1月の予定です。

第32回国立大学図書館東北地区協議会総会

標記会議が、4月18日（水）・19日（木）岩手大学を会場として東北地区7大学から28名参加して開催され、次ぎの協議題について討議が行われた。

- 1) 第48回国立大学図書館協議会総会に向けての準備事項等について
- 2) 東北地区におけるSD（サイエンス・ダイレクト）に関するサブコンソーシアムの形成について
- 3) 附属図書館における学習支援機能の充実方策について
- 4) 国立大学附属図書館におけるIT化への取り組みについて
- 5) 附属図書館予算の充実方策について
- 6) 国立大学の法人格取得に伴う附属図書館の対応について
- 7) 次期当番館について
- 8) その他
ドキュメント・デリバリー・サービスの運用について（申し合せ）（案）について

その結果、次ぎのとおり決定した。

1. 文部科学大臣に対して特に要望すべき事項
 - (1) 資料共同利用センター（仮称）の整備
 - (2) レファレンスデータベースの整備
 - (3) 図書館業務合理化経費の増額
 - (4) 学生用図書購入費の増額
 - (5) その他の改善事項

2. 総会の分科会で検討するための協議題

- ・電子ジャーナル導入の将来について

3. その他

- ・ドキュメント・デリバリー・サービスの運用について（申し合せ）（案）について

なお、平成13年度理事候補館及び所属部会並びに地区連絡館がそれぞれ次ぎのとおり選出された。

理事候補館

- ・山形大学附属図書館（第1部会）
- ・東北大学附属図書館（第2部会）

地区連絡館

- ・東北大学附属図書館

（総務課）

会 議

◎学 外

13. 4.18～19 第32回国立大学図書館東北地区協議会総会（於：岩手大）
- 5.29 国立大学図書館事務部課長会議（於：東京医科歯科大）
- 5.30 国立大学図書館協議会受賞者選考委員会（於：東大）
- 5.30 国立大学図書館協議会著作権特別委員会（於：東大）

- 5.30 国立大学図書館協議会常務理事会（於：東大）

- 5.31 国立大学図書館協議会理事会（於：東大）

6. 1 国立大学図書館協議会と国立情報学研究所との業務連絡会（於：東大）

- 6.27～28 第48回国立大学図書館協議会総会（於：北大）

附属図書館商議会商議員名簿

平成13年7月1日現在

所 属	氏 名	任 期
図 書 館 長	小 田 忠 雄	官 職 指 定 (9.12. 1~14.11. 5)
図 書 館 副 館 長	布 田 勉	官 職 指 定 (12.12. 1~14.11.30)
医 学 分 館 長	飯 沼 一 宇	官 職 指 定 (11.12. 1~13.11.30)
北 青 葉 山 分 館 長	吉 藤 正 明	官 職 指 定 (11. 4. 1~14. 3.31)
工 学 分 館 長	宮 崎 照 宣	官 職 指 定 (12. 4. 1~14. 3.31)
農 学 分 館 長	大 森 迪 夫	官 職 指 定 (13. 4. 1~15. 3.31)
事 務 局 長	北 村 幸 久	官 職 指 定 (12. 7. 1~)
文 学 研 究 科 教 授	阿子島 香	13. 4. 1~15. 3.31
教育学研究科教授	細 川 徹	13. 4. 1~15. 3.31
法 学 研 究 科 教 授	柳 父 圀 近	12. 4. 1~14. 3.31
経 済 学 研 究 科 教 授	杉 本 典 之	13. 4. 1~15. 3.31
理 学 研 究 科 教 授	倉 本 義 夫	11. 4. 1~14. 3.31
医学系研究科教授	里 見 進	11. 4. 1~14. 3.31
歯 学 研 究 科 教 授	奥 野 攻	13. 4. 1~15. 3.31
薬 学 研 究 科 教 授	後 藤 順 一	12. 4. 1~14. 3.31
工 学 研 究 科 教 授	日 野 光 兀	13. 4. 1~15. 3.31
農 学 研 究 科 教 授	谷 口 旭	13. 4. 1~15. 3.31
国際文化研究科教授	米 山 親 能	13. 4. 1~15. 3.31
情報科学研究科教授	日 合 文 雄	13. 4. 1~15. 3.31
生命科学研究科教授	前 田 靖 男	13. 4. 1~15. 3.31
金属材料研究所教授	平 賀 賢 二	12. 7. 1~15. 3.31
加齢医学研究所教授	貫 和 敏 博	8. 4. 1~15. 3.31
流体科学研究所教授	寒 川 誠 二	13. 4. 1~14. 3.31
電気通信研究所教授	矢 野 雅 文	10. 4. 1~14. 3.31
多元物質科学研究所教授	宮 下 徳 治	13. 4. 1~15. 3.31
東北アジア研究センター教授	入間田 宣 夫	12. 4. 1~14. 3.31
大学教育研究センター教授	関 内 隆	8. 4. 1~15. 3.31

人 事 異 動

平成13年7月1日現在

発令年月日	新 官 職	氏 名	旧 官 職	備 考
13. 3. 30		佐 藤 和 子	事務補佐員（情報サービス課閲覧第一掛）	任期満了
13. 3. 31		折 谷 隆 之	農学分館長	〃
〃		五十嵐 行 衛	情報サービス課図書館専門員	定年退職
〃		千 葉 龍 郎	情報サービス課閲覧第二掛長	〃
〃		柴 田 淑 子	文部科学事務官（情報管理課図書情報掛）	〃
〃		千 田 進	医学分館総務掛主任	〃
〃		早 坂 絹 子	工学分館管理掛主任	〃
〃		熊 谷 弘 子	事務補佐員（総務課会計掛）	任期満了
〃		伊 藤 剛	事務補佐員（医学分館運用掛）	〃
〃		張 明	事務補佐員（医学分館運用掛）	〃
〃		張 忠 福	事務補佐員（医学分館運用掛）	〃
13. 4. 1	農学分館長	大 森 迪 夫		併 任
〃	北青葉山分館長	吉 藤 正 明		併任（再任）
〃	北海道大学附属図書館情報管理課長	早 瀬 均	情報サービス課長	転 出
〃	情報サービス課長	矢 野 誠	弘前大学附属図書館情報管理課長	転 入
〃	工学部・工学研究科総務課課長補佐	伊 東 正 勝	総務課課長補佐	配 置 換
〃	総務課課長補佐	菅 原 邦 男	理学部・理学研究科事務長補佐	〃
〃	情報サービス課図書館専門員	松 井 好 次	情報管理課図書館専門員	〃
〃	情報管理課図書館専門員	佐々木 勝 義	医学分館整理掛長	昇 任
〃	情報シナジーセンター学術情報支援掛長	星 政 則	総務課システム管理掛長	配 置 換
〃	情報サービス課相互利用掛長	吉 川 和 幸	情報管理課受入掛長	〃
〃	情報管理課受入掛長	芳 賀 博	宮城教育大学附属図書館整理係長	転 入
〃	情報サービス課閲覧第二掛長	前 田 裕 子	情報サービス課参考調査掛長	配 置 換
〃	情報サービス課参考調査掛長	内ヶ崎 洋 一	仙台電波工業高等専門学校庶務課図書係長	転 入
〃	医学分館整理掛長	小 松 武 彦	医学分館運用掛長	配 置 換
〃	医学分館運用掛長	大 原 正 一	工学分館管理掛長	〃
〃	工学分館管理掛長	阿 部 佳 市	情報サービス課相互利用掛長	〃
〃	仙台電波工業高等専門学校庶務課図書係長	對 馬 庸 二	文部科学事務官（情報管理課雑誌情報掛）	昇 任
〃	宮城教育大学附属図書館運用係長	武 内 桂 子	文部科学事務官（農学分館図書掛）	〃
〃	医学分館総務掛主任	穴 戸 友 三	学務部学生課学生第二掛主任	配 置 換
〃	文部科学事務官（薬学部・薬学研究科経理掛）	永 野 ちはる	文部科学事務官（総務課庶務掛）	〃
〃	文部科学事務官（総務課庶務掛）	星 亜紀子	文部科学事務官（工学部・工学研究科人間・環境系学科事務室）	〃
〃	文部科学事務官（山形大学経理部契約室契約第二係）	佐 藤 秀 樹	文部科学事務官（総務課会計掛）	転 出
〃	文部科学事務官（総務課会計掛）	佐 藤 光 信	文部科学事務官（科学計測研究所経理掛）	配 置 換

発令年月日	新 官 職	氏 名	旧 官 職	備 考
13. 4. 1	文部科学事務官(農学分館図書掛)	藤 澤 こず江	文部科学事務官(情報管理課受入掛)	配 置 換
"	文部科学事務官(情報管理課雑誌情報掛)	横 山 美 佳	文部科学事務官(情報管理課電子情報掛)	"
"	文部科学事務官(情報管理課電子情報掛)	照 内 弘 通	文部科学事務官(総務課システム管理掛)	"
"	文部科学事務官(情報シナジーセンター学術情報支援掛)	杉 山 智 章	文部科学事務官(情報サービス課閲覧第一掛)	"
"	文部科学事務官(北青葉山分館管理掛)	吉 植 庄 栄	文部科学事務官(東京外国語大学附属図書館目録情報係)	転 入
"	文部科学事務官(工学分館管理掛)	今 出 朱 美	文部科学事務官(情報サービス課参考調査掛)	配 置 換
"	文部科学事務官(工学分館整理・運用掛)	五十嵐 幸 子	文部科学事務官(反応化学研究所図書室)	"
"	文部科学事務官(工学分館整理・運用掛)	中 村 浩 子	文部科学事務官(北青葉山分館管理掛)	"
"	文部科学事務官(多元物質科学研究所総務課研究協力掛図書室)	泉 ふじこ	文部科学事務官(工学分館整理・運用掛)	"
"	文部科学事務官(電気通信研究所総務課図書掛)	早 坂 幸 子	文部科学事務官(工学分館整理・運用掛)	"
"	文部科学事務官(情報サービス課参考調査掛)	阪 脇 孝 子		採 用
"	文部科学事務官(情報管理課図書情報掛)	関 戸 麻 衣		"
"	事務補佐員(情報管理課受入掛)	須 田 洋 子	事務補佐員(工学分館管理掛)	配 置 換
"	事務補佐員(工学分館管理掛)	渡 辺 春 美	事務補佐員(情報管理課受入掛)	"
"	事務補佐員(情報サービス課閲覧第一掛)	三 浦 康 子	事務補佐員(総務課庶務掛)	"
"	事務補佐員(情報サービス課閲覧第一掛)	島 地 祥 子	事務補佐員(情報管理課図書情報掛)	"
"	事務補佐員(情報管理課図書情報掛)	岸 上 ゆう子	事務補佐員(情報サービス課閲覧第一掛)	"
"	事務補佐員(医学分館運用掛)	菅 野 知 子	事務補佐員(工学分館管理掛)	"
"	事務補佐員(工学分館管理掛)	松 元 由美子	事務補佐員(医学分館運用掛)	"
"	事務補佐員(北青葉山分館整理・運用掛)	千 葉 幸 代	事務補佐員(北青葉山分館管理掛)	"
"	事務補佐員(総務課庶務掛)	名 倉 千 春		採 用
"	事務補佐員(総務課会計掛)	京 極 貴 子		"
"	事務補佐員(情報サービス課閲覧第一掛)	平 間 芳 子		"
"	事務補佐員(情報サービス課閲覧第一掛)	小 松 健一郎		"
"	事務補佐員(医学分館運用掛)	吉 田 光 洋		"
"	事務補佐員(医学分館運用掛)	徐 進		"
"	事務補佐員(医学分館運用掛)	黄 瀚 偉		"
13. 4. 30		島 地 祥 子	事務補佐員(情報サービス課閲覧第一掛)	辞 職
13. 5. 1	事務補佐員(情報サービス課閲覧第一掛)	小 林 有 子		採 用
13. 6. 30		丸 本 六 穂	事務補佐員(情報管理課雑誌情報掛)	辞 職
13. 7. 1	事務補佐員(情報管理課雑誌情報掛)	我 妻 江 美		採 用

編 集 後 記

水不足が心配されていた今年の天候ですが、本格的な梅雨シーズンに入りました。水不足の心配も杞憂に終わると良いのですが。

昨年末から逐次説明会を開催してきた、第4次 T-LINES も最後に残ったオンラインサービスのリリースを以って漸く全ての機能がそろいました。本館、各分館での利用者向けオンラインサービス説明会開催のニュースも聞こえてきます。

『木這子』編集委員会にもメンバーの入れ替えがあり、幾人かの新メンバーが加わりました。斯く言う私もその内の一人で、4月に初めての人事異動で工学分館に着任早々、広報委員と木這子編集委員を仰せつかりました。先輩諸氏の

ご助力のもと一年間務めて参りたいと存じます。

『木這子』編集方針や記事に関するご意見、ご感想がございましたら、ご遠慮なくお寄せ下さい。皆様のご意見が編集委員会のナビゲーターです。(五十嵐)

広報委員

東 高明 菅原 邦男 高橋 正平
湯本 智子 菅原 透 三浦 純子
松元 義正 五十嵐幸子 佐藤優美子
照内 弘通 横山 美佳 村尾真由子

編集委員

菅原 邦男 湯本 智子 菅原 透
五十嵐幸子 佐藤優美子



東北大学附属図書館報「木這子」 第26巻第1号(通巻94号) 発行日 平成13年6月30日

発行人 濟賀 宣昭 広報委員長 東 高明

発行所 東北大学附属図書館 〒980-8576 仙台市青葉区川内 電話 022-217-5911, FAX 022-217-5909
URL <http://www.library.tohoku.ac.jp/>